

郷土摂津

第81号

平成17年1月1日

いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

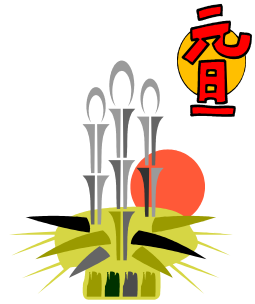
ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>

新年あけましておめでとうございます。

昨年は「災」の字に代表されるような世相厳しい1年でした。これまで人類は様々な災害に直面してきました。しかし、その度に災害を克服し文明を発展させてきました。歴史は過去の記録だけではありません。先人の知恵の集積です。今こそ知恵を出しあって新しい歴史が築かれまますよう、災いが転じて福となりますよう祈念してやみません。

これからも本通信におきましては、最新の文化財情報を提供してまいります。本市の文化財行政に、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

摂津市教育委員会 生涯学習課長 木下 好宏



摂津市の 石造文化財



力石(鳥飼上)

第10回

力石とは およそ長さ50cm、幅30cm、厚さ30cm、重さ100kg前後の直方体に近い形をした石。近世から近代にかけて、若者達を中心とする多くの民衆がこれを持ち上げ、互いに力くらべをした石造物です。若者たちが力を競い、体力づくりと成人儀礼の一つとして遊びや娯楽化していったと考えられます。また力石の持ち上げを見世物とするプロ集団による曲持ちなど、興行としても発展していきました。

力石と若者 力石を持つことで、共同体内で一人前とみなしていく、あるいは「若者組」(地域によっては「若衆」「若連中」「若中」などとも呼ばれる)のなかで仲間としてみなしていくという事があったようです。若中に入る年令は15歳が標準で、その頃から力石の持ち上げをしたようです。興行相撲や力石の持ち上げ興行などがあった後、その地域では一種の流行として、さらに熱中したようです。しかし持ち上げ方が悪いと骨折する場合もあったようですし、腰や胸をいためたり、肋膜炎になるなど肉体的なダメージも大きかったようです。

力石(鳥飼上1丁目) 淀川に近接する若宮ちびっこ広場の中に力石が5つ並んで置かれています。これらの力石のうち3つに切りつけと呼ばれる陰刻の銘文が彫られています。切りつけは地域名、奉納した人や持ち上げた人などの個人名が彫られています。他の2つは練習用のようで切りつけは見られません。

【銘文】鳥上若



【銘文】鳥上若中



目方四拾貫力石

若中

鳥飼上之村

【銘文】



切りつけの銘文(拓本)

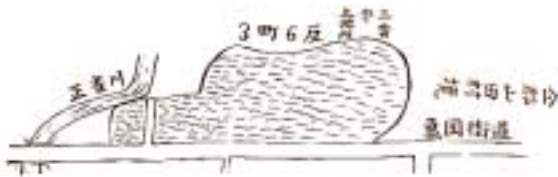
石碑・顕彰札の紹介

市場池 この石碑は市制施行 30 周年記念事業一環として味舌上財産区により設置されました。

石碑に刻まれた文章（原文のまま）

江戸時代初期 味舌上村の灌漑用溜池として市場池が築かれた。その当時の面積はおよそ三町六反（約三五・六四〇㎡）と伝えられている。農業最盛期には、この市場池から山田川西側の田畑三十一町歩に農業用水を供給していた。近年に至り、万国博覧会の開催や正雀川分水路、市場池公園の整備などにより市場池の面積は、約一八・〇〇〇㎡に減少した。平成四年十月市場池オアシス整備事業着工の運びとなり、平成八年三月に市場池オアシス広場が完成した。

平成八年（一九九六年）三月
味舌上財産区



摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市千里丘6丁目11

【設置年度】平成8年3月



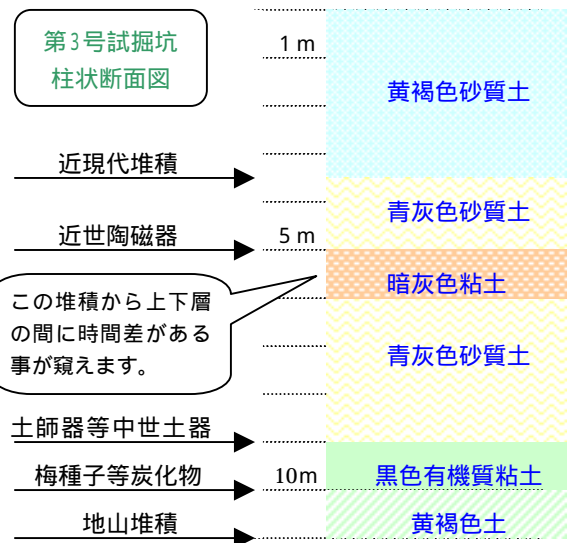
石碑に刻まれた古地図 市場池は江戸時代には味舌大池と呼ばれていました。その横に今は埋めたてられて姿を消した市場小池がありました。

第44回 埋もれた摂津市の歴史

淀川から土器が出土・柱本遺跡の調査

じれるなど苦労が絶えなかったようです。しかし最終的には地表面より 10m前後の堆積が確認可能となりました。試掘坑3ヶ所のうち第3号試掘坑が比較的良好に堆積状況が確認できましたので紹介します。3号試掘坑は河道より23m北に寄った地点で1辺10m、面積100㎡の範囲で調査が実施されました。最終的な掘削深度は現状地盤から10mを計ります。基本的な層序は黄褐色砂質土、青灰色砂質土、黒色有機質粘土、黄褐色土の4層からなります。（つづく）

このときの試掘調査では計3ヶ所、236㎡の範囲で実施されました。いずれも淀川右岸の河川敷部に接した地点です。流入水が著しく、陥落が生じ、使用した13mの鋼矢板では掘削の限度があり、全体がね



この堆積から上下層の間に時間差がある事が窺えます。